

街路樹

学力向上に向けて ⑮

～ 教師自身のペア学習 ～

学力向上のためには、教師自身の学びも欠かすことができません。しかし、まとまった時間がとれないなど、自己研修に関して悩んでいらっしゃる先生方が多いのではないのでしょうか。

今回は、教師自身のペア学習を提案したいと思います。誰かと一緒に研修する方が意欲も湧きますし、成果も実感できると思います。また、少人数ですので、気軽に取り組めるのではないのでしょうか。具体的な方法は以下の通りです。

- ①ペアになってくれる先生を見つける。
研究教科や経験年数が同じなど、共通項の多い先生でもよいですし、経験豊富で自分の苦手分野に詳しいなど、違うものをもっている先生でもよいでしょう。
- ②期限を決める。
2ヶ月間、一単元の間など、ペアを組む期間を決めます。
- ③研修の内容を決める。
現職教育に関連する情報を収集してもよいですし、授業実践について相互評価するといったこともできます。
- ④交流のもちかたを決める。
無理なく継続できる方法にします。共通の時間を確保しなくても、資料や記録の共有はできます。
- ⑤成果の検証をする。
期限が来たら、ペア学習の成果を検証します。自己評価は勿論のこと、相手の変容や成果も評価します。

この研修方法は、二人に限定せず行うこともできます。しかし、「ざっくばらんに意見交換ができる少人数」が望ましいでしょう。研修を通して「この情報を〇〇先生にも教えてあげよう」「〇〇先生はこの教材をどう解釈するだろうか」などの発想が生まれることと思います。誰かに伝えること、誰かと意見を交わすことによって、思考は深まり、研修の質も向上します。そして、子どもたちは、楽しく自己研修する先生方の姿から、仲間と学ぶことの意義を見出してくれるのではないのでしょうか。



授業改善・指導技術 ⑤

～ 「豊かな学力」を育てる授業改善 ～

日常の授業を見直す10の視点・・・1学期を振り返ってみよう。
2学期に心がけてみよう。

- 導入などを生かした学習への動機付けがはっきりしている。
- 課題(何をどうするのか)が子どもに意識されている。
- 子どもの考えが動かす学習活動となっている。
- 子どもの疑問やこだわりを引き出す発問になっている。
- 子どもが進んで表すことができる表現活動の工夫がある。
- 多様な小集団のバリエーションが生かされている。
- 個々の課題に対しニーズに応じる個別指導が考慮されている。
- 板書がクラス共通の思考画面として生かされている。
- 一人一人が違う学習ノートになっている。
- 選りすぐられた学習ルールが確立され教室に節度もたらされている。

－文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官－

永田 繁雄 氏



学級経営のヒント ⑤

～ 家庭との連携・・・協力・信頼関係を ～

- 授業参観・学級懇談会・・・児童・生徒及び学級の様子を知らせるよい機会。一方的伝達でなく保護者との意見・情報交換の場に。
 - 家庭訪問・・・学校の計画の他、必要に応じて個別に。児童・生徒の問題行動等の非を攻めることを避け、共に考える姿勢で。
 - 学年・学級通信・・・学校や学年・学級の様子を多面的に伝える。保護者から寄せられた意見を取り上げるなど、交流するとよい。
 - 連絡帳・電話連絡・・・学校での児童・生徒の様子を随時知らせる。家庭からの連絡には、確実に目を通し、誠意を持って丁寧に対応する。電話での対応は言葉遣いや伝え方、確認の仕方など十分気をつける。
 - PTA活動・・・学校や学年・学級の行事参加協力で感謝し、情報の共有化の機会に。授業のゲストティーチャーに協力願う等工夫。
- ※ 家庭との連携とともに、学校を取り巻く地域や学校を支える外部機関との連携も大切にしたい。その際、具体的に何を連携するか、目的を確認して一体的な行動を行うことが大切です。

研修の感想・講義紹介

特別支援教育講座の感想より

- 信頼を得るためには、一貫性、継続性、日常性が大切であることを再確認しました。(小・Y)
- 「好きで障害を持った子は一人もいない。」「親も障害のある子として産もうとした人はいない。」という言葉が心に残った。(小・E)
- 「子どもの小さな伸びを共に喜べる教師集団であれ。」「子どもや授業が話題になる職員室にしたい。」という言葉が心に響いた。(中・G)
- コーディネーターは、マネジメント、学校全体が動きやすいようにプランやアイデアを提示していくことが大切だと分かった。(小・B)
- ターゲット行動を設定することで成果が出て、そのことが自信につながり次の目標につながっていくというよい循環を生み出していくことがわかりました。(小・K)

授業改善講座講義より

～ 習得・活用・探究の力を育てる授業のあり方 ～

東京大学大学院教育学研究科 市川 伸一教授

「教えずに考えさせる授業」の問題点

- 先取り学習をしている子、すぐに解が分かった子にとっては退屈。
- 学力の低い子は、自力解決もできず、討論にもついていけない。
- 教師がていねいに説明する時間がなくなる。

「教えて考えさせる授業」の提案(○)とうまいかないとき(●)

- 「教えて考えさせる授業」は習得の授業の基本。教えたあとには、理解確認課題をていねいに。問題解決や討論は基礎知識を共有してから。
- 教えるところで十分教えない。 ● 考えさせる課題に魅力がない。
- 理解度のモニターが不十分。(診断的質問、説明活動など)